

第4回 がん化学療法と口腔ケア～入院・外来治療から在宅まで～

開催日/会場/協賛：2010年11月14日（日）/学研ビル（東京・五反田）/サンスター株式会社

講師：大田洋二郎先生（静岡県立静岡がんセンター 歯科口腔外科）

妻木浩美先生（静岡県立静岡がんセンター 摂食・嚥下障害看護認定看護師）

辻本好恵先生（静岡県立静岡がんセンター 歯科口腔外科 歯科衛生士）



口腔粘膜炎の理解と周術期～終末期の口腔ケア



静岡県立静岡がんセンター 歯科口腔外科 大田洋二郎先生

がん化学療法中に口腔粘膜炎をおこしやすい部位や抗がん剤の種類等をご説明いただきました。また、具体的なケアとしては口腔内を清潔に保つこと、口腔内の保湿、疼痛コントロールを挙げ、粘膜炎の軽重に応じて3段階のケア方法を提示いただきました。さらに具体的な症例を提示してご説明くださいました。

最後に先生は、「がん患者に口腔ケアは特別なケアではなく、必要な状況に介入するとQOLは確実に向上する。がん治療に口腔ケアがなければ治療の質が担保されない」と口腔ケアの重要性を強調されました。

口腔トラブルへの対処



静岡県立静岡がんセンター 摂食・嚥下障害看護認定看護師 妻木浩美先生

口腔トラブルへの対処において、看護師の役割として口腔内を観察して口腔トラブルの原因とケアの必要性を考えること、セルフケアの支援、医師や歯科衛生士など他職種との連携を挙げられていました。また食事についての工夫や、食事の摂取量、水分摂取量、回復までの期間の目安もご提示いただきました。

がん化学療法における口腔ケア

静岡県立静岡がんセンター 歯科・口腔外科 歯科衛生士 辻本好恵先生

治療前から口腔ケアの習慣化が重要で、抗がん剤投与開始して1週間目に悪心・吐気によってセルフケアが困難な時期はうがいだけでも続けてもらうことが大事だと強調されました。また、歯ブラシは柔らかく小さいものを使う、歯磨き粉はしみる場合があるので無理に使用しない、痛みが強い場合や出血しやすい場合はブラッシングを中止するなどの具体的な注意点もご提示いただきました。

